



2020年2月18日
株式会社立花商店
生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 2号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

先々週高らかにカカオニュースの再開をお知らせしたばかりですが、なんと先週に急性虫垂炎で入院することになってしまい、いきなりの発行お休みとなってしまいました。

1週間の入院を経て、現在は回復しております。気を取り直して、今週から元気に再開したいと思いますので、宜しくお願い致します。

1, 今週のカカオトレーダーの目 《カカオ産業に関する J I C A の活発な動き》

サステナブル・カカオに対する J I C A の活動がかなり活発化している。今回はその事例として2つの動きを紹介します。

① JICA がガーナのココボードに1億米ドル(約110億円)を融資契約

ガーナのカカオを全統括している組織の名前として、COCOBOD(ココボード)があります。業界に長い方なら一度は聞いたことがあると思いますが、この度 JICA が開発金融機関の協調融資の枠組みとして、このココボードに1億米ドル(約110億円)を融資するようです。下記は JICA プレスリリース内の概要

国際協力機構 (JICA) は、2月14日、ガーナ共和国の Ghana Cocoa Board (COCOBOD) が行う Productivity Enhancement Program (PEPs) (注1) に対する融資契約に調印しました。本融資は開発金融機関及び民間金融機関による総額6億米ドルの協調融資で、開発金融機関 (JICA、アフリカ開発銀行 (AfDB)、南部アフリカ開発銀行 (DBSA)、イタリア預託貸付公庫 (CDP)) が総額2.5億米ドル (内、JICA は1億米ドル)、民間金融機関等が総額3.5億米ドルを融資します。

本件プレスリリース : https://www.jica.go.jp/press/2019/20200214_11.html

② 開発途上国における「サステイナブル・カカオ・プラットフォーム」を立ち上げ

J I C A が主導して、日本のチョコレート産業全体でサステナブル・カカオの実現に向けた協業、活動が活発化、促進されることを目指し、その事務局となるプラットフォームの設立が2月1日付で発表されました。詳細は下記よりご参照いただけます。この組織は無料の会員制組織で関心がある方はどなたでも登録できますのでぜひ、法人・個人様でご関心のある方は下記をチェックください。

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/governance/platform/index.html>

更に、このプラットフォーム立ち上げに合わせて、またバレンタインデーという時期にもあり、下記のようなカカオに関する公開イベントが J I C A 主催で行われ、私も登壇させて頂きました。

「SDGs とチョコレートー持続可能な未来のためにできることー」バレンタインデーを前にサステイナブル・カカオに関するイベントを開催（2月5日実施）

https://www.jica.go.jp/information/seminar/2019/20200205_01.html

内容骨子（JICA・HP引用）

冒頭、「SDGs とコレクティブ・インパクト」と題し、チェンジ・エージェンツ 小田氏より、持続可能なサプライチェーンの構築に向けて多くの人々を巻き込んでコレクティブ・インパクトを出した事例などが紹介されました。

その後、サステイナブル・カカオに関連し、企業やNGOが現在取り組んでいることについての発表がありました。兼松 矢崎氏、立花商店 生田氏よりギニアにおける森林保全に配慮した高品質カカオの普及・実証・ビジネス化の事例、明治 宮部氏よりマダガスカルにおける高品質カカオのバリューチェーン構築のための普及・実証・ビジネス化の事例、江崎グリコ 古谷氏よりエクアドルでのボランティア事業を通じたカカオ生産者団体の支援について発表がありました。引き続き、プラン・インターナショナル・ジャパン 番場氏、ACE 近藤氏より企業とNGOの連携による地域開発による事例の紹介があり、最後にデロイト トーマツ コンサルティング 羽生田氏より Child Labour Free Zone (CLFZ) とルール形成による経済合理性の Re-Design について発表がありました。

イベント後半では、JICAより、幅広い関係者を繋ぐ「場」として2020年1月に「開発途上国におけるサステイナブル・カカオ・プラットフォーム」を立ち上げたことが紹介されるとともに、前半の登壇者（生田氏、古谷氏、羽生田氏）に明治 宇都宮氏、ACE 白木氏を加え、パネルディスカッションとして、プラットフォームへの期待などについて議論が交わされました。



2、ガーナカカオ豆着荷状況 《1月30日現在の集荷は昨年同様レベル》

政府のカカオ監督機関であるココボードによると、10月1日の新シーズン開始後から1月30日までのカカオ集荷数量は646,232トンとなった。昨年同時期までの集荷数量は644,318トンであった為、ほぼ同じペースでの集荷が進んでいる模様だ。

3、コートジボアール豆着荷状況《昨年を上回るペースでの集荷が継続》

コートジボワールの2/10-16の週間でのカカオ集荷数量は39,386トンであった。昨年の同時期の1州では38,450トンの集荷数量であった。また、シーズンが10月1日に始まってからの総到着数は157万トンとなっており、前年の約145万トンをかなり上回る数量となっています。

* 下記はコートジボアール産カカオの買い付けのトップ5企業。コートジボワールでは国際的な需要者は国内に買い付けの為の会社を設立しており、生産者から政府の規定価格での買い付けを行う仕組みになっています。

会社名	購入数量(トン)
アウトSPAN(オーラムのグループ)	232,291
カーギル	207,917
Saco(バリーカレボーグループ)	188,930
Sucden(フランスの商社)	104,935
Tuton(フランスの商社)	97,273
その他の企業	739,580
合計	1,570,926

4、ナイジェリアカカオの作柄情報《ミッドクロップ作柄は2月に降雨が上手くいくか次第！》

2019-20シーズンのミッドクロップのカカオの作柄は、今月に降雨があれば作柄は順調であろうと、ナイジェリアのココア協会の会長である Sayina Riman 氏は月曜日に語った。ナイジェリア気象庁は、2月からはカカオ生産地域にも降雨があると予測しており、同氏によれば、予測通り雨が降るか降らないかが重要であるとのこと。

現在、ナイジェリアの南東部と南西部のココア生産地域では、今年の初めから雨が降らず、業界ではミッドクロップの生育に悪影響を与えるかもしれないという懸念が高まっている。

前述のココア協会は、昨年メインクロップのカカオが大量の降雨による洪水とその影響でカカオ農園の病気の発生を誘発したことより当初の17%収穫量減少から最終的には30%減少へと下方修正を行った。その影響も大きく、例年2月まで続くメインクロップの収穫は今年、収穫は1月上旬に終了した。

ナイジェリアのイバダン地区のトレーダーであるピオラ・オロコ氏によると、2月上旬は通常11月から始まる乾季の途中ですが、例年であれば、通常1月から3月の間にミッドクロップのカカオの発達を助ける降雨が少ないながらも数回は起こるそうだ。ミッドクロップカカオは、ナイジェリアでの1年のシーズンの2回あるのカカオの収穫の2番目で、通常は3月~7月、8月に収穫されます。協会によれば、ミッドクロップは同国の年間おおよそ30万トンのカカオ生産量の30%を占めている。一方、ナイジェリアでは、降雨については課題が多いが、これまで、季節的なハルマタンの風（サハラ砂漠から西アフリカに吹く乾燥したほこりっぽくて冷たい風）が他の西アフリカのガーナやコートジに比べて穏やかであり、ミッドクロップのカカオの発育には良い影響を与得てきたと前述のトレーダーは説明した

5、カカオ相場の基礎知識：「参加者を知ろう！編」その2 ②金融プレイヤーについて

前回はプレイヤー①として実需家カテゴリーを説明させて頂きましたが、今回はプレイヤー②として、非実需家=金融プレイヤーです。

《非実需家=金融プレイヤーとは》

実際にはカカオを必要としない中で、金融ビジネスの商品として先物のカカオを売ったり買ったりする法人が対象。

この金融プレイヤーは上記の青枠で囲んだ箇所のスワップディーラー、資金運用業者に分類されていますがここはあまり気にしなくて良いです。他の統計では詳細に分けられていない事もあり、合計して金融プレイヤーとしてまずとらえてください。

参考程度ですが、一般にはスワップディーラーというのは、短期の売買を繰り返して利ザヤを狙う業種、資

金運用者は年金基金や、投資信託のファンドマネージャーなどがやや中期長期で運用をしている業種を指すことが多いです。但し、この業種についても自己申告で振り分けられていますので必ずしも正確なものではなく、やはり金融プレイヤーとして一括りにまずは見ていくのがわかりやすいかと思います。

《金融プレイヤーの行動パターン》

さて、下記の表は、先週1週間でのロンドン先物取引市場でのカカオの建玉の増減の増減と2月11日時点での残高を表しています。

参考) 2月11日時点のカカオ先物建玉の状況 (ロンドン市場)

	先物 建玉	増減	先物・Optn 建玉	増減
生産者・流通業者・加工業者・需要家				
ロング	138666	-308	175452	2886
ショート	249041	4498	273643	3210
ネットポジション	-110375	-4806	-98191	-324
強気 (%)	-44.3		-35.9	
スワップディーラー				
ロング	46996	-150	33757	-2354
ショート	15786	333	16437	978
スプレッド	5171	261	27279	2503
ネットポジション	31210	-483	17320	-3332
強気 (%)	197.7		105.4	
資金運用業者				
ロング	74661	2440	71599	1690
ショート	1488	-65	1747	61
スプレッド	20507	3639	31411	4773
ネットポジション	73173	2505	69852	1629
強気 (%)	4917.5		3998.4	
その他業者				
ロング	7166	464	7693	1122
ショート	4870	-1449	489	-52
スプレッド	16332	127	50936	1834
ネットポジション	2296	1913	7204	1174
強気 (%)	47.1		1473.2	

ロンドン市場でのこの金融プレイヤーの典型的な行動パターンは、カカオの価格が割安だと踏んだ場合に、先物市場で言う“買い=ロング”からスタートします。

一方、復習になりますが、前号で説明の通り、実需家がまず産地筋の売り（売り価格固定）による、トレーダー勢の先物市場での売り（実物を産地筋から買う）からまずはスタートします。

金融プレイヤーは実需家のように実際のカカオを一切使いませんし、見ていません。あくまで情報や統計をベースに「チョコレートの消費が伸びそうだ」とか、「西アフリカで新しい価格制度が導入されたので将来のカカオは高くなるはずだ」というカカオを取り巻く環境を分析し、将来の価格上昇期待感があるときに、金融プレイヤーはカカオを投機対象として買います。当然このような金融プレイヤーの動きは大筋似ていますので、大量の買い付けにより相場は通常かなり一気に上昇します。十分に上昇したと各々法人が利益確定の為の“売り=ショート”してポジションをクローズします。

上記の表を枠内を見てください。2つの赤字で囲んだ数字ですが、2月11日現在で、金融カテゴリーのネットポジションが前週に比べて+10.4万（3.1万+7.3万）ロット増えたことを示しています。

これは、金融プレイヤーがかなりカカオを沢山買い越しているんだな、まだまだ金融プレイヤーはカカオの価格が上昇すると期待しているんだなと読み解きます。（多少売っていてもいますが、先週に引き続き、圧倒的に買いの方が優勢です）

一方で、実需家はどうかとみてみますと、11 万ロット売りロットが増えています。実需VS金融で見ますと、11 万ロット売られて、10.4 万ロット買われたので、実需と金融筋で相殺されて均衡している感じが 2 月 2 週目の動きだったという事がわかります。